



2011年3月期 第2四半期

決 算 説 明 会

株式会社ダスキン
2010年11月18日

本資料に関するご注意事項

DUSKIN[®]
喜びのタネをまごう

- 本資料には、当社(連結子会社を含む)の見通し、目標、戦略等の将来に関する記述が含まれております。
- これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づく判断及び仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性及び今後の事業運営や、内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来における当社の実際の業績又は展開と大きく異なる可能性があります。
- 第2四半期決算短信の11ページ(追加情報)に記載の通り、第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。
同9ページ[セグメント情報]の(注)2に記載の通り、セグメント利益の調整額には、従来通り「セグメント間取引消去」及び「全社費用」が含まれており、本資料においては「全社・消去」と表示しております。

目 次

DUSKIN[®]
喜びのタネをまごう

決算概況

連結業績	2
売上高の状況	3
営業利益の状況	5
経常利益の状況	7
当期純利益の状況	9
連結貸借対照表の状況	11

セグメント別売上高と営業利益

セグメント別ハイライト	13
主要事業の概況	
(1)クリーニングループ	14
(2)フードグループ	18
(3)その他	22
(3)その他[海外事業]	23

第2四半期 公表予想との比較

第2四半期の公表予想と実績の比較	24
------------------	----

通期業績予想について

2011年3月期 通期業績予想	27
2011年3月期 セグメント別予想	28

ご参考

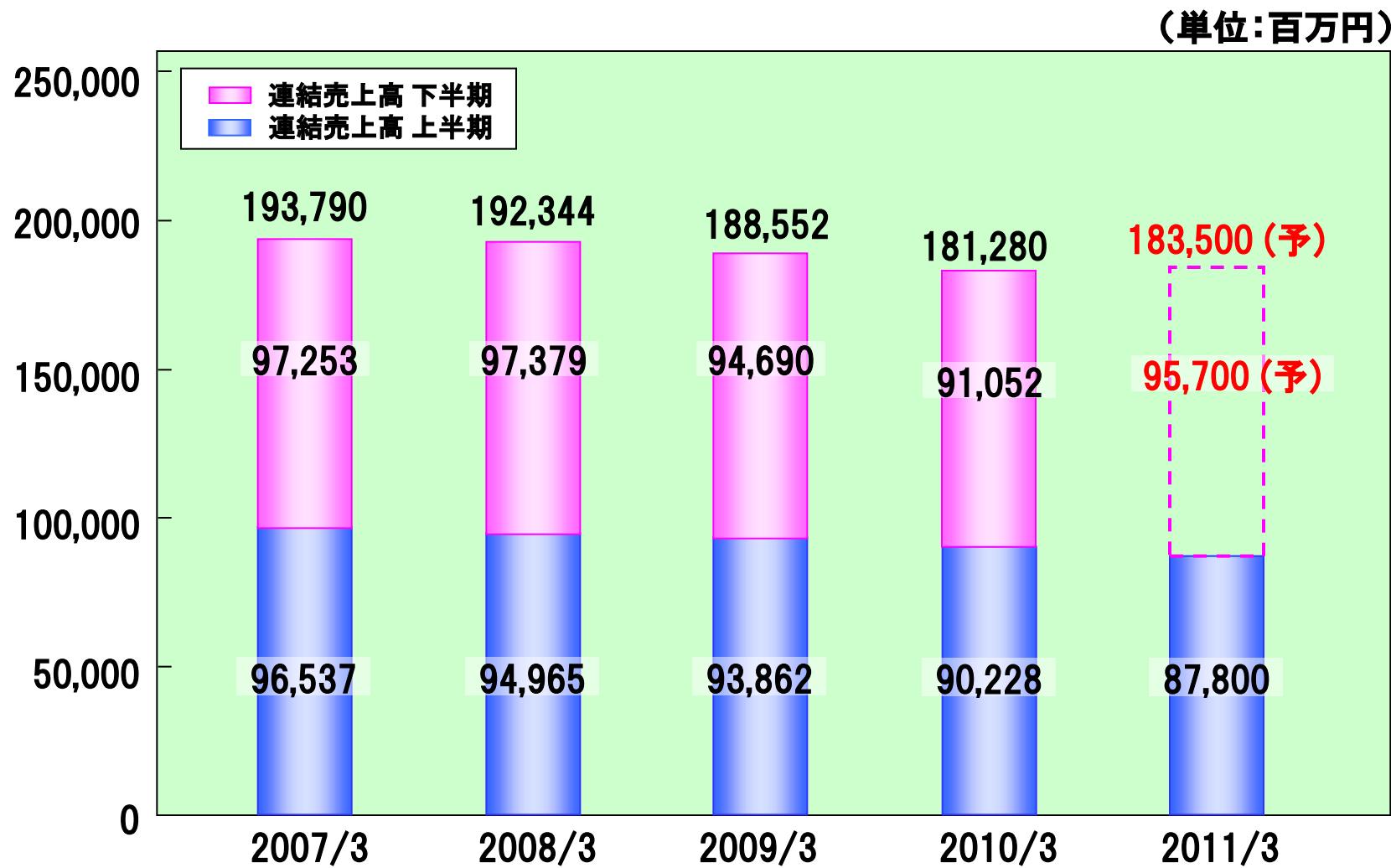
個別決算概況	30
セグメント別お客様売上高	31
事業別お客様売上高	32
セグメント別事業概要	33
ダストコントロール事業のビジネスモデル	35

2011年3月期 第2四半期 決算概況

連結業績

	2009/9月期 実績	2010/9月期 実績	前年同期比		(単位:百万円)
			増減(額)	率(%)	(ご参考) 2010/3月期
売上高	90,228	87,800	△2,428	△2.7	181,280
営業利益	6,505	5,155	△1,350	△20.8	12,129
売上高営業利益率	7.2 %	5.9 %	△1.3 %	—	6.7 %
経常利益	7,233	6,036	△1,197	△16.6	13,806
売上高経常利益率	8.0 %	6.9 %	△1.1 %	—	7.6 %
当期純利益	3,182	2,624	△558	△17.5	7,824
売上高当期純利益率	3.5 %	3.0 %	△0.5 %	—	4.3 %

■連結売上高の推移



■連結売上高のポイント

お客様の生活防衛意識・節約志向が一段と高まる等、当社を取り巻く環境は依然として大変厳しい状況が続き、クリーニンググループ、フードグループとも減収

2010/9月期の連結売上高

878億円

前年同期比 △24億28百万円(△2.7%)

【会計処理基準の変更】

従来、加盟店に対するシステム、機械設備等の賃貸収入及び費用は営業外損益に計上しておりましたが、当期よりフランチャイズ事業に係る収支を、より適切に表示することを目的として「売上高」「売上原価」及び「販売費及び一般管理費」に計上する方法に変更しております。

この会計処理基準の変更により、従来の方法に比べて、売上高は10億56百万円増加しております。この影響を除外した売上高は867億44百万円であり、これを前年同期と比較しますと、34億84百万円(3.9%)の減少となります。

会計処理基準変更の影響を除いた連結売上高

867億44百万円

前年同期比 △34億84百万円(△3.9%)

■連結営業利益(率)の推移

(単位:百万円)

(単位:%)

20,000

16,000

12,000

8,000

4,000

0

- 売上高営業利益率
- 営業利益 下半期
- 営業利益 上半期

13,986

6,081
(6.3)7,905
(8.2)

14,263

6,747
(6.9)7,516
(7.9)

12,307

6,217
(6.6)6,090
(6.5)

12,129

5,624
(6.2)6,505
(7.2)

10,000(予)

4,845(予)
(5.1)5,155
(5.9)

2007/3

2008/3

2009/3

2010/3

2011/3

■連結営業利益のポイント

2010/9月期の連結営業利益

51億55百万円 前年同期比 Δ 13億50百万円(Δ 20.8%)

主な増減要因

会計処理基準変更に伴う営業利益の増加影響額 **6億円**

会計処理基準変更の影響を除いた営業利益

45億72百万円 前年同期比 Δ 19億33百万円(Δ 29.7%)

①売上高減少に伴う営業利益の減少影響額 **2億円**

売上の減少に伴い、売上総利益が減少し、
営業利益への影響は約2億円

②原価率のアップによる営業利益の減少影響額 **3億円**

会計処理基準変更の影響を除いた原価率の前年同期比較

2009/9期 54.8% \Rightarrow 2010/9期 55.1% 0.3ポイントUP

③経費率のアップによる営業利益の減少影響額 **14億円**

会計処理基準変更の影響を除いた販管費率の前年同期比較

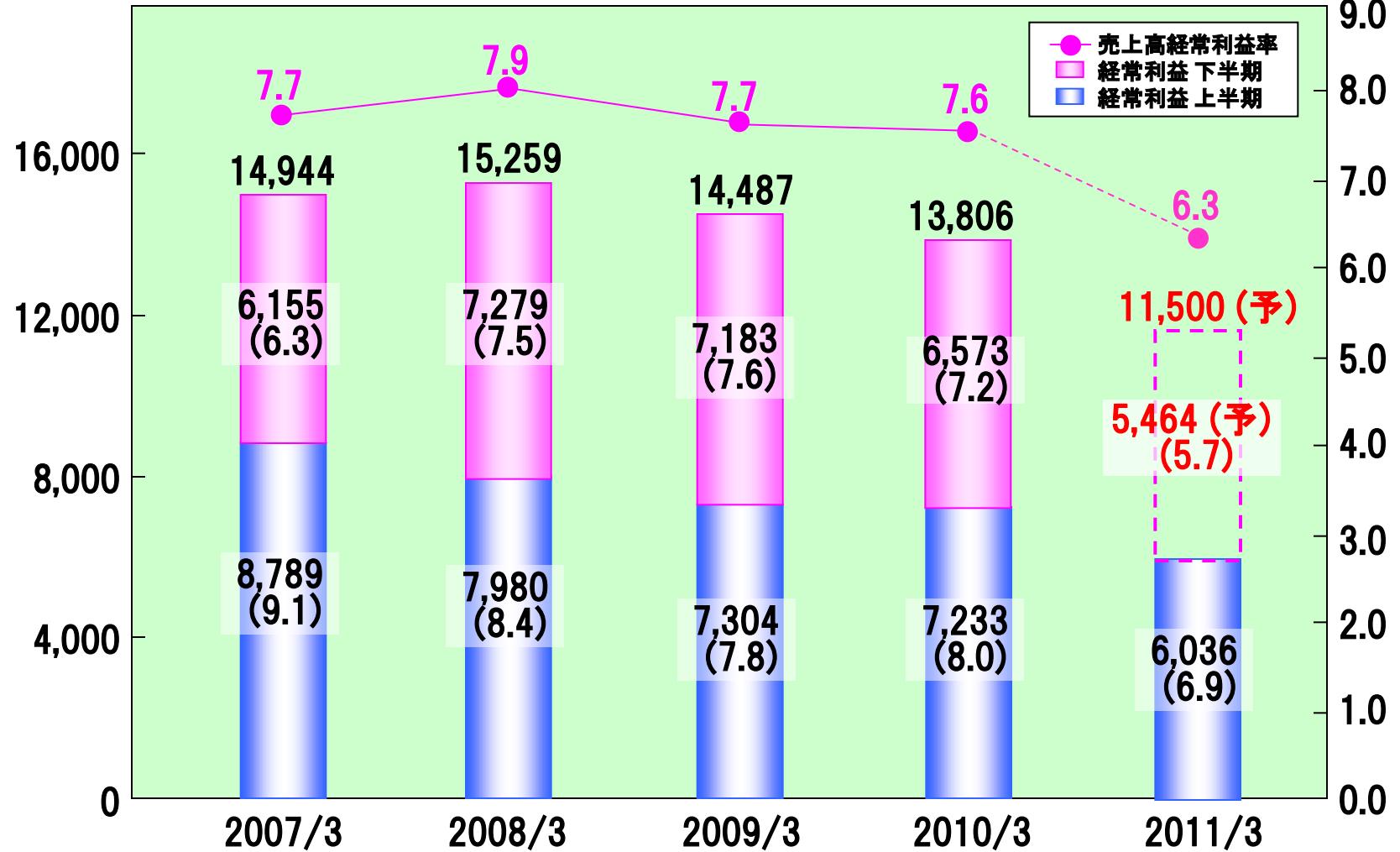
2009/9期 38.0% \Rightarrow 2010/9期 39.6% 1.6ポイントUP

※主としてクリーニンググループでの新店舗業務システム導入に伴う費用

■連結経常利益(率)の推移

(単位:百万円)

(単位:%)



■連結経常利益のポイント

2010/9月期の連結経常利益

60億36百万円 前年同期比 △11億97百万円(△16.6%)

主な増減要因

①営業利益の減少 14億円

②会計処理基準変更に伴う営業外損益の減少影響額 6億円

・設備賃貸料の減少 8億円

・設備賃貸費用の減少 2億円

※ 経常利益段階では会計処理基準変更の影響はない

③会計処理基準変更の影響を除く営業外損益の改善 8億円

・持分法投資損益の改善 5億円

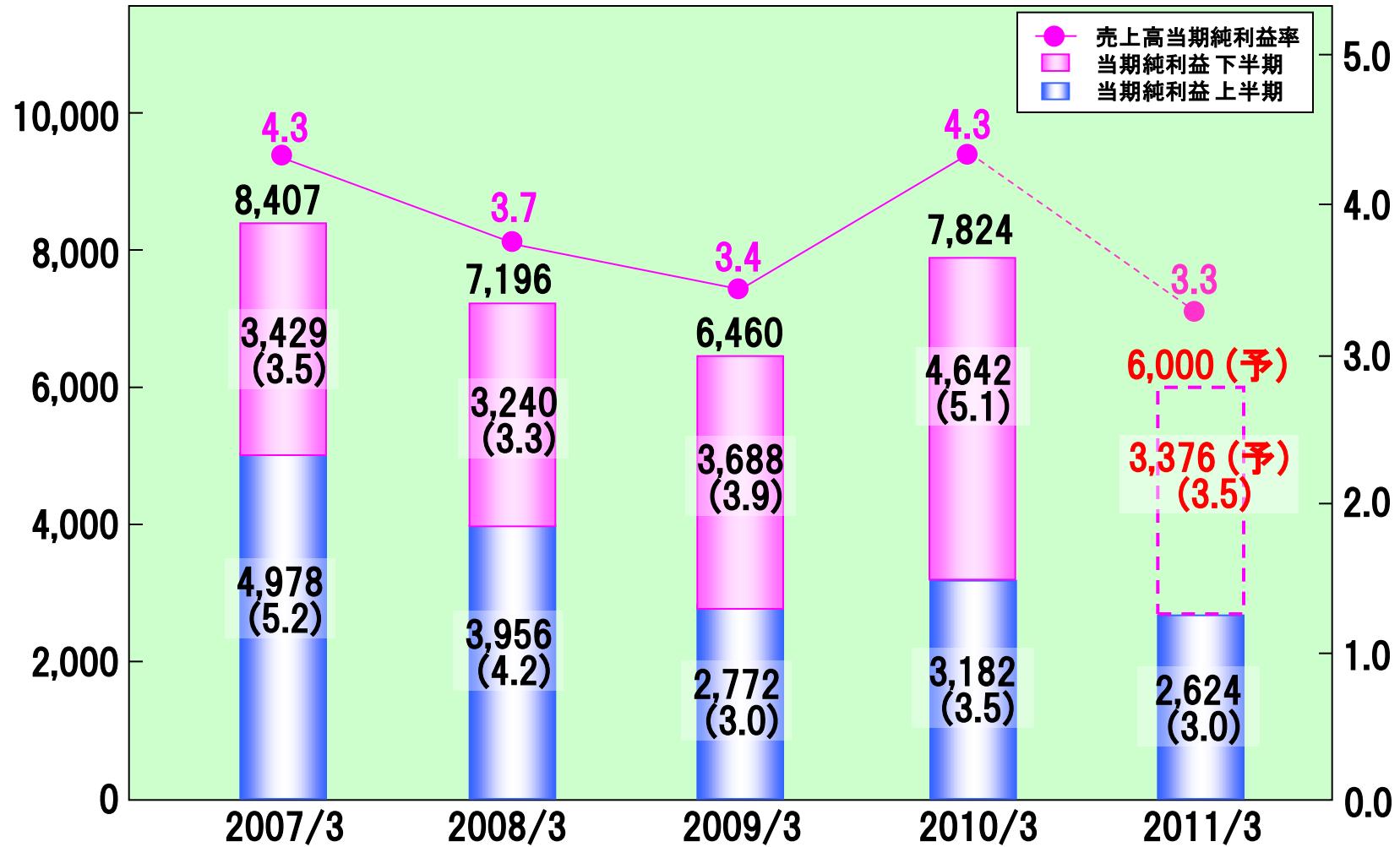
・金融収支の改善 1億円

・その他 2億円

■連結当期純利益(率)の推移

(単位:百万円)

(単位:%)



■連結当期純利益のポイント

2010/9月期の連結当期純利益

26億24百万円 前年同期比 △5億58百万円(△17.5%)

主な増減要因

① 税引前当期純利益の減少

- ・経常利益の減少
- ・特別損益の悪化

17億円
12億円
5億円

投資有価証券評価損の増加
資産除去債務先行適用の影響
固定資産廃棄損の減少 他

② 税金費用の減少

- ・税前利益減少に伴う法人税の減少
- ・有税の持分法投資損失減少に伴う税金の減少
- ・前期有価証券評価損に係る税金の減少

12億円
7億円
2億円
2億円

(単位:百万円)

	2010/3月期	2010/9月期	前期末比 増減	主な増減要因
流動資産	66,453	66,253	△200	現金及び預金の減少 有価証券の増加 46億円 40億円
有形固定資産	53,170	52,979	△190	—
無形固定資産	6,754	6,361	△393	—
投資その他資産	74,509	73,147	△1,362	投資有価証券の減少 差入保証金の減少 14億円 4億円
資産合計	200,889	198,742	△2,147	—

流動負債	41,228	38,354	△2,874	買掛金の減少 未払法人税等の減少 未払金の減少 4億円 4億円 10億円
固定負債	11,352	12,155	803	退職給付引当金の増加 資産除去債務の増加 5億円 4億円
純資産	148,308	148,232	△76	剰余金の配当 四半期純利益 26億円 26億円
負債純資産合計	200,889	198,742	△2,147	—

※資産除去債務の増加は流動負債で3億円あり、合計で7億円

有利子負債	5,986	5,924	△62	—
--------------	-------	-------	-----	---

※有利子負債=1年以内返済予定を含む長期借入金(現在、社債及び短期借入金はありません。)

セグメント別売上高と営業利益

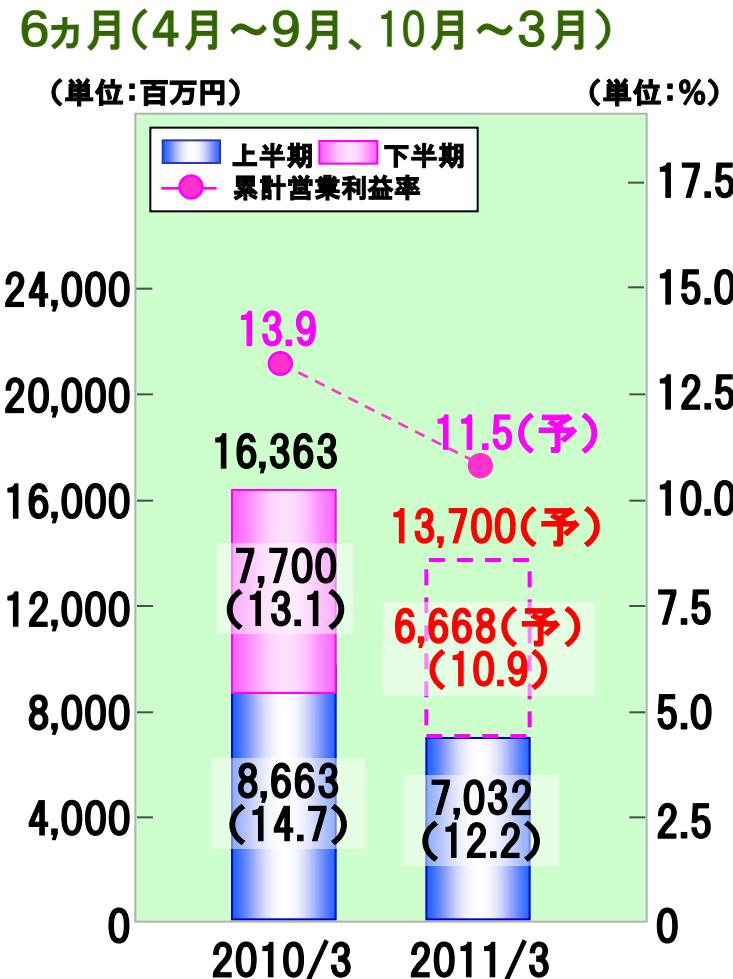
(単位:百万円)

		2010/3月期 営業利益率(%)		2009/9月期 営業利益率(%)		2010/9月期 営業利益率(%)		前期比 増減率(%)	
クリーン グループ	売上高	117,940	—	59,129	—	57,611	—	△1,518	△2.6
	営業利益	16,363	13.9	8,663	14.7	7,032	12.2	△1,630	△18.8 (△2.4)
フード グループ	売上高	52,440	—	25,585	—	24,850	—	△735	△2.9
	営業利益	4,120	7.9	2,010	7.9	1,666	6.7	△343	△17.1 (△1.2)
その他	売上高	10,899	—	5,512	—	5,338	—	△174	△3.2
	営業利益	628	5.8	298	5.4	40	0.8	△257	△86.5 (△4.7)
全社・消去	営業利益	△8,983	—	△4,466	—	△3,584	—	882	—
連結合計	売上高	181,280	—	90,228	—	87,800	—	△2,428	△2.7
	営業利益	12,129	6.7	6,505	7.2	5,155	5.9	△1,350	△20.8 (△1.3)

売上高



営業利益



クリーニングループ

	前期	当期	増減額	率(%)
P/L上の売上 ①	59,129	57,611	△1,518	△2.6
処理基準変更による増加額 ②	—	431	—	—
増加額を除いた実態P/L ①-②	59,129	57,179	△1,950	△3.3

- 家庭市場、事業所市場とも、一部の商品群で前年を上回るもの、依然厳しいマーケット環境が続いている

家庭市場

- 主力のモップ商品群は、昨秋発売の『shushu』が好調に推移し、ハンディモップは前年を上回ったものの、フロアモップ及び他商品の落ち込みをカバーできず、前年割れとなる
家庭用モップ前期比較(商品出荷ベース)
 ハンディモップ 2億円(6.6%)増、フロアモップ 4億円(5.3%)減、モップ計 1.5%減
- 一方、役務サービスでは、価格を見直してキャンペーン展開を行った「エアコンクリーニング」が好調に推移すると共に、他のサービスメニューも前年を上回った
家庭対象のエアコンクリーニング前期比較
 単価 約25%減、件数 約80%増、売上 約35%増

事業所市場

- 事業所市場では、主力のマット商品をはじめとして新規の顧客獲得が依然低調である
事業所用主力商品の前期対比
 マット 5億円(3.5%)減、モップ 1億円(4.0%)減、化粧室関連 2億円(7.9%)減

クリーニングループ

	前期	当期	増減額	率(%)
P/L上の営業利益 ①	8,663	7,032	△1,630	△18.8
処理基準変更による増加額 ②	—	248	—	—
増加額を除いた実態P/L ①-②	8,663	6,784	△1,879	△21.7

- 売上減少に伴う売上総利益の減少 9億円
- 原価率の変動に伴う売上総利益の減少 1億円
 - 新商品「ダストクリーナー」の投入による影響
- 販売費及び一般管理費の増加 8億円
 - 売上減少に伴う経費の減少はあるものの、新店舗業務システムの導入費用等の発生で経費率は悪化
 - ・売上減少に伴う経費減少 7億円
 - ・新店舗業務システム導入費増加額 10億円
 - ・その他の経費増加額(組織変更に伴う費用増を含む) 5億円

【計画との比較】

- 当初の計画から、新商品「ダストクリーナー」の拡販に伴う原価の増加、及び新店舗業務システムの導入費用の増加を見込んでおり、営業利益は減益の計画
- 新店舗業務システムの導入は計画通りに進捗、導入費用も概ね計画通りに増加
- 一方、「ダストクリーナー」の上半期投入計画は、その大部分が下半期にずれ込んだことから、営業利益は前年比較では減益であるものの、計画に比べると上振れ

■ 今後の取り組み

➤ 住まいの快適生活提案 “新おそうじスタイル”

フロアモップとダストクリーナー、収納ケースをセットした掃除機を使わない“新おそうじスタイル”を提案

- ・営業活動とテレビコマーシャル及びキャンペーンを連動させ、ほこりをたてない新しいお掃除スタイルの提案型営業活動を推進する



“新おそうじスタイル”イメージ

➤ “健康おそうじ”提案

若年主婦層の新規顧客獲得に向けたアレル物質対応商品の訴求

➤ 来期に向けた新商品のテスト販売

今までのモップとは一味違うハンディタイプモップ『shushu』のスタイリッシュ性や機能性を取り入れたフロアモップの販売テストを実施

➤ 事業所市場での新規顧客の獲得

水周りなど事業所や店舗のトラブルに24時間対応する『緊急駆けつけサービス』を営業の切り口として、新規顧客へのアプローチを強化する

■ ネットワーク計画

➤ 新店舗業務システムの拠点導入は、ほぼ計画通り進捗している

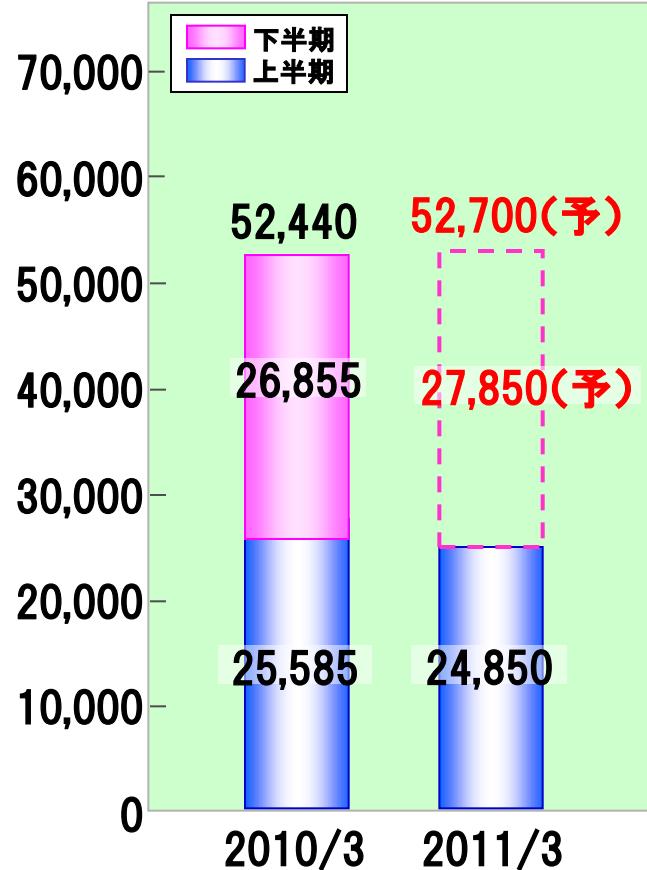
新店舗業務システムに係る費用の上期実績は、前年同期と比較すると約10億円増加し13億円となる

➤ 全国11ヵ所に設置予定の研修センターは、中国地域を除く10ヵ所でオープン

売上高

6ヵ月(4月～9月、10月～3月)

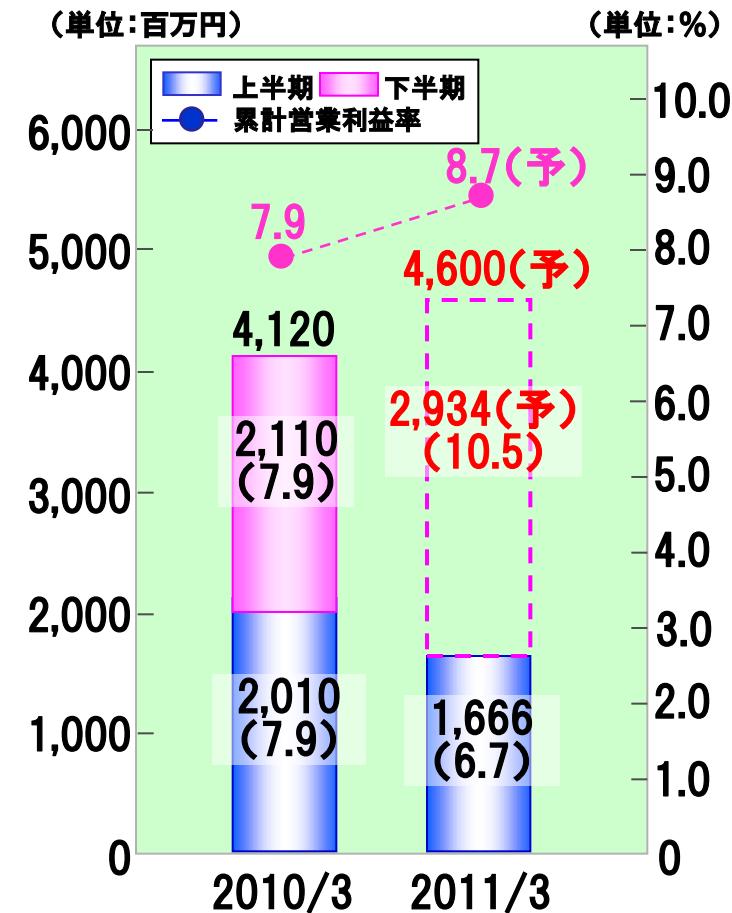
(単位:百万円)



営業利益

6ヵ月(4月～9月、10月～3月)

(単位:百万円)



フードグループ

	前期	当期	増減額	率(%)
P/L上の売上 ①	25,585	24,850	△735	△2.9
処理基準変更による増加額 ②	—	624	—	—
増加額を除いた実態P/L ①-②	25,585	24,226	△1,359	△5.3

- フードグループは、主力のミスター・ドーナツ事業が第1四半期大きく前年を下回ったことにより上半期は減収となる

● 四半期単位売上比較(会計処理基準変更の影響額を除いた数値)

(単位:百万円)

	第1四半期	第2四半期	上半期
前年同期	13,328	12,257	25,585
当期	12,224	12,002	24,226
増減 (増減率)	△1,105 (△8.3%)	△255 (△2.1%)	△1,359 (△5.3%)

● ミスター・ドーナツ
国内既存店お客様売上

前年同期対比増減率

第1四半期	△5.4%
第2四半期	△0.6%
上半期	△3.1%

- ・前期から引き続きバラエティ感を前面に打ち出し、毎月新商品を投入するとともに、40周年を切り口としたキャンペーンを展開して来店誘因を図るが、前期ほどの成果は得られなかった
- ・モスフードサービスとの共同キャンペーンや商品の一斉入れ替え等の施策が功を奏した前期に比べ、特に第1四半期に売上を落とした
- ・第2四半期は、7月・8月と猛暑の影響を受けたものの、8月26日から4日間に亘って国際フォーラムで開催した40周年大復刻祭イベントとキャンペーンの相乗効果で9月が好調であったため、約2%の落ち込みにとどまる

フードグループ

	前期	当期	増減額	率(%)
P/L上の営業利益 ①	2,010	1,666	△343	△17.1
処理基準変更による増加額 ②	—	481	—	—
増加額を除いた実態P/L ①-②	2,010	1,185	△824	△41.0

➤ 営業利益は売上の減少や販売促進費用の増加等で減益

- 売上の減少に伴う売上総利益の減少、40周年キャンペーンに伴う販売促進費用の増加等により営業利益は大幅減益となる
- 油脂仕入れ価格の値上げの影響等で、会計処理基準の変更を除いた実質的な原価率は僅かに上昇

➤ 第1四半期と第2四半期の比較

(会計処理基準変更の影響額を除いた数値)

・フードサービス事業 四半期単位の営業利益比較 (単位:百万円)

	第1四半期	第2四半期	上半期
前年同期	1,195	815	2,010
当期	737	449	1,185
増減 (増減率)	△458 (△38.3%)	△366 (△55.1%)	△824 (△41.0%)

【計画との比較】

- 売上が計画を下回ったことに伴う売上総利益の下振れ及び想定外の油脂仕入れ価格上昇に伴う原価率UPにより、計画比でも営業利益は下振れ

■ ミスター・ドーナツ事業今後の取り組み

“40周年大復刻祭”を核とした展開

素材・製法にこだわった商品の導入

- 産地限定素材ドーナツ
- 季節限定ドリンク、季節限定飲茶

商品プロモーション

- 価格均一セール、新商品フェア
- 40周年感謝企画
- 地域別プロモーション

ポイントカードの付加価値向上



➤ 国内の出店状況

・積極的な出店を目指すが、上半期の店舗数は微増に留まった

今後も積極的に店舗増を目指す政策は変わらない

	標準店舗	小商圈店舗	アンドナンド	モスト	計
前期末	1,315	11	5	0	1,331
9月末時点	1,317	16	7	1	1,341

その他

※ 当期から海外事業は「その他」の区分に含めております

	前期	当期	増減額	率(%)
P/L上の売上	5,512	5,338	△174	△3.2
	前期	当期	増減額	率(%)
P/L上の営業利益 ①	298	40	△257	△86.5
処理基準変更による減少額 ②	—	146	—	—
減少額を除いた実態P/L ①+②	298	187	△110	△37.2

国内では、顧客企業の経費削減意識の一層の高まりから業績は低調に推移

- 病院施設のマネジメント事業(株)ダスキンヘルスケア)が、顧客施設の経費削減志向の影響から減収となり、それに伴い減益となった

海外の連結子会社3社トータルでは、売上は順調に伸びており、赤字幅は大幅に縮小

全社・消去

	前期	当期	増減額	率(%)
P/L上の営業利益	△4,466	△3,584	882	17.7

- 当期からの組織変更に伴う費用の減少(クリーニングループへの費用移動) 4億円
- 宣伝広告費等の費用削減 2億円
- セグメント間取引消去額の減少 2億円

海外事業

※ 当期から海外事業は「その他」の区分に含めております。

➤ 海外事業の売上推移

事業単位の国及び地域別お客様売上

	国名及び地域 (単位:現地通貨)	2008/9	2009/9	2010/9
ダストコントロール 事業	台湾(千台灣元)	252,181	227,608	259,736
	上海(千人民元)	2,424	3,676	5,368
ミスター ドーナツ 事業	台湾(千台灣元)	405,967	355,798	377,711
	上海(千人民元)	6,930	8,420	11,626
	韓国(千ウォン)	3,970,628	7,711,758	11,988,452
	タイ(千バーツ)	557,137	614,213	646,761
	フィリピン(千ペソ)	886,131	807,822	853,843

➤ ミスター ドーナツ海外(上海・台湾・韓国)店舗の推移

3地域とも着実に店舗数を増やしている

9月末時点	前期末 店舗数	9月末 店舗数	増加数
上海・台湾・韓国 合計	98店	133店	35店

2011年3月期 第2四半期 公表予想との比較

連 結

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
5/14公表予想	90,000	4,000	4,500	2,500
実績	87,800	5,155	6,036	2,624
乖離額	△2,200	1,155	1,536	124
乖離率(%)	△2.4	28.9	34.1	5.0

営業利益

下振れ要因

原価率悪化(0.3%アップ)の影響

売上原価 約1億円 増加

売上減少による売上総利益への影響

売上総利益 約9億円 減少

上振れ要因

新商品投入の下期へのズレ(ダストクリーナー)

売上原価 約7億円 減少

人件費の減少

経費 約5億円 減少

販売促進費の下期へのズレ

経費 約7億円 減少

手数料等経費削減

経費 約3億円 減少

経常利益

金融収支の改善等

営業外収益 約3億円 増加

特別損益

有価証券評価損の発生 他

特別損失 約10億円 増加

当期純利益

税前利益増加に伴う法人税等の増加 他

税金費用 約4億円 増加

2011年3月期 通期業績予想について

《2010年5月14日公表数値》

連 結

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2010/3月期実績	181,280	12,129	13,806	7,824
2011/3月期予想	183,500	10,000	11,500	6,000
増減額	2,219	△2,129	△2,306	△1,824
増減率(%)	1.2	△17.6	△16.7	△23.3

個 別

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2010/3月期実績	158,966	9,742	13,770	7,592
2011/3月期予想	162,000	8,000	10,500	5,500
増減額	3,033	△1,742	△3,270	△2,092
増減率(%)	1.9	△17.9	△23.7	△27.6

売上・営業利益

※

(単位:百万円)

		2010/3月期 (実績) 営業利益率		2010/9月期 ①(実績) 営業利益率		下半期 ②-①(予想) 営業利益率		2011/3月期予想 ②(5/14公表通り) 営業利益率	
クリーン グループ	売上高	117,940	—	57,611	—	61,189	—	118,800	—
	営業利益	16,363	13.9%	7,032	12.2%	6,668	10.9%	13,700	11.5%
フード グループ	売上高	52,440	—	24,850	—	27,850	—	52,700	—
	営業利益	4,120	7.9%	1,666	6.7%	2,934	10.5%	4,600	8.7%
その他	売上高	10,899	—	5,338	—	6,662	—	12,000	—
	営業利益	628	5.8%	40	0.8%	760	11.4%	800	6.7%
全社・消去	営業利益	△8,983	—	△3,584	—	△5,516	—	△9,100	—
連結合計	売上高	181,280	—	87,800	—	95,700	—	183,500	—
	営業利益	12,129	6.7%	5,155	5.9%	4,845	5.1%	10,000	5.4%

※2010/3月期実績の新セグメントに置換えた数値は、会計監査対象外のため参考数値です。

ご参考

個別業績

(単位:百万円)

	2009/9月期 実績	2010/9月期 実績	前年同期比		(ご参考) 2010/3月期
			増減(額)	率(%)	
売上高	78,798	76,923	△1,875	△2.4	158,966
営業利益	5,299	4,015	△1,283	△24.2	9,742
売上高営業利益率	6.7 %	5.2 %	△1.5 %	—	6.1 %
経常利益	7,890	5,553	△2,337	△29.6	13,770
売上高経常利益率	10.0 %	7.2 %	△2.8 %	—	8.7 %
当期純利益	4,394	2,587	△1,807	△41.1	7,592
売上高当期純利益率	5.6 %	3.4 %	△2.2 %	—	4.8 %

(単位:百万円)

	2009/9月期		2010/9月期		前年同期比		2010/3月期(参考)	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率	金額	構成比
クリーングループ	142,468	66.8%	139,296	66.7%	△3,172	△2.2%	283,014	65.7%
フードグループ	61,597	28.9%	59,824	28.7%	△1,773	△2.9%	128,240	29.8%
その他	9,221	4.3%	9,650	4.6%	429	4.7%	19,530	4.5%
合計	213,288	100.0%	208,772	100.0%	△4,516	△2.1%	430,785	100.0%

(注)ダスキン全国チェーン店お客様売上高(本資料におきましては「お客様売上高」と記載しております)は、国内外の直営店・子会社売上高及び加盟店推定売上高の合計を参考数値として記載しております。

事業別お客様売上高 前年同期比較(上半期)

(単位:百万円)

	2009/9月期	2010/9月期	前年同期比 率	
クリーングループ	142,468	139,296	△3,172	△2.2%
ビジネスサービス (うち、ユニフォームサービス)	56,726 (1,644)	54,009 (1,623)	△2,717 (△20)	△4.8% (△1.3%)
ホームサービス (うち、ヘルス＆ビューティ)	57,187 (1,417)	55,851 (1,499)	△1,336 (81)	△2.3% (5.7%)
ケアサービス	20,541	20,772	231	1.1%
ホームインステッド	1,132	1,167	34	3.1%
レントオール	6,341	6,880	538	8.5%
ドリンクサービス	538	615	76	14.1%
フードグループ	61,597	59,824	△1,773	△2.8%
ミスターードーナツ	58,710	57,151	△1,559	△2.7%
フードチェーン	1,051	940	△111	△10.6%
(株)どん	1,570	1,301	△268	△17.1%
スティック・スイーツ・ファクトリー 他	265	431	165	62.6%
その他	9,221	9,650	428	4.7%
(株)ダスキンヘルスケア	3,638	3,415	△222	△6.1%
海外・その他	5,583	6,235	651	11.7%
合 計	213,288	208,772	△4,516	△2.1%

新セグメント別の事業概要

2010年3月期連結：売上高1,813億円、営業利益121億円

クリーニンググループ

売上高	1,179億円
営業利益	164億円

※売上は、①加盟店へのレンタル・商品売上、資器材・薬剤売上等
 ②ロイヤルティ
 (ダストコントロール事業に関してはロイヤルティなし)
 ③直営店売上

ビジネスサービス

ホームサービス

ダストコントロール

モップ、マット等のダストコントロール商品をはじめ、
 レンジフードフィルターや浄水器、空気清浄機、化粧室
 まわり商品等、暮らしやビジネス環境を便利に快適にする
 商品群を提供

ケア4事業

ハウスクリーニング、家事代行サービス、害虫駆除
 サービス、庭木のお手入れサービスを提供

ユニフォームサービス

レンタル及びクリーニング

ヘルス&ビューティ

化粧品や健康食品の提供

ホームインステッド

介護保険適用外の高齢者
 生活支援サービス

レントオール

日常品・介護用品のレンタル

ドリンクサービス

フードグループ

売上高	524億円
営業利益	41億円

※売上は、①加盟店への原材料売上
 ②ロイヤルティ
 ③直営店売上

ミスター・ドーナツ

手づくりのフレッシュな
 ドーナツを提供するミス
 タードーナツ業態を展開

フードチェーン

カフェ「カフェデュモン
 ド」、かつ専門店「かつ
 アンドかつ」等を展開

スティック・スイーツ・ファクトリー

スティックケーキの販売

(株)どん

海鮮丼を中心に新鮮な海
 の幸や旬の素材を使った
 丼等を提供

その他

売上高	109億円
営業利益	6億円

※売上は、①直営売上

(株)ダスキンヘルスケア

病院に対して衛生管理、
 診療材料の滅菌等の
 サービスを提供

ダスキン共益(株)

リース事業

ダスキン保険
サービス株式会社海外事業・その他
ダスキン香港 他

フランチャイズ展開

クリーニンググループ

ビジネスサービス

- ・モップ、マット等の定期訪問レンタル
- ダストコントロール…… 事業所用 モップ、マット等
- クリーンサービス…… 事業所用 トイレ・洗面所関連商品
- エアークリーン…… 事業所用 空気清浄機
- ウォータークリーン…… 事業所用 净水器
- ワイプフルサービス…… レンタルウエス
- ・ユニフォームサービス…… レンタル及びクリーニング
- ・ケア4事業
- サービススマスター…… 事業所用 プロのお掃除
- ターミニックス …… 事業所用 寄虫獣駆除・予防

ホームサービス

- ・モップ、マット等の定期訪問レンタル
- ダストコントロール…… 家庭用 モップ、マット等
- エアークリーン…… 家庭用 空気清浄機
- ウォータークリーン…… 家庭用 净水器
- ・ヘルス＆ビューティ…自然派化粧品、健康食品
- ・ケア4事業
- サービススマスター…… 家庭用 プロのお掃除
- メリーメイド…… 家事代行
- ターミニックス …… 家庭用 寄虫獣駆除・予防
- トゥルグリーン…… 庭木の手入れ

ホームインステッド

- ・介護保険適用外介護
- レントオール
- ・イベント用品等のレンタルや介護用品のレンタル
- ドリンクサービス…… コーヒー、ウォーター

フードグループ

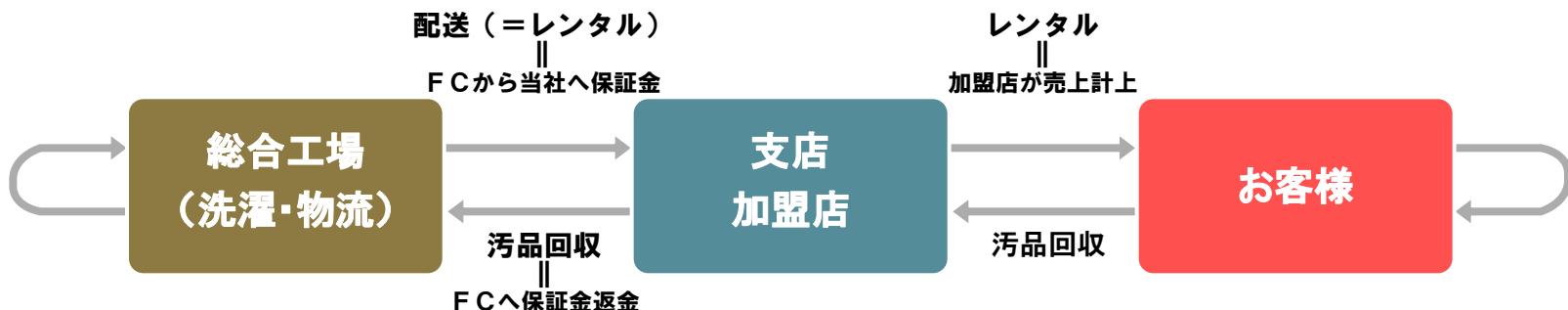
- ・ミスターードーナツ…… ミスターードーナツ
 アンドナンド
- ・フードチェーン
 カフェデュモンド…… カフェオレとベニエ
 かつアンドかつ…… とんかつレストラン
- ・スティック・スイーツ・ファクトリー
 …スティックケーキ
- ・ザ・どん…… 海鮮どんぶり

その他

- ・FCを含むグループ内への販売
- ダスキン共益…… リース事業
- ダスキン保険サービス… 保険代理事業
- ・ダスキンヘルスケア…… 病院の清掃等
- ・海外事業
 ダスキン香港、ミスターードーナツ韓国他
- ・新規事業

モップ・マット等のレンタル

商品を繰り返し使い、寿命が尽くるまで使い切るという発想が根幹



直営及び子会社	14工場
協力会社	33工場
合計	47工場

直営及び子会社支店	78店
FC拠点	約2,100拠点
合計	約2,200拠点

訪問販売員
約75,000人

家庭市場の お客様	約750万軒
--------------	--------

事業所市場の お客様	約150万軒
---------------	--------

①全国を網羅する充実した生産・販売体制

- この資源循環型ビジネスモデルを全国規模で確立するには、工場体制の整備、レンタル用商品の資材購入に多額の投資が必要であり、加えて全国的な訪問販売員の組織構築に時間と費用を要するため、競合は少ない。

②強固な顧客基盤

- 対面販売できる広範な顧客基盤を有している点が強み。特に家庭市場における顧客基盤が強固である。